



UNIVERSITY ACCREDITED
2017.4-2024.3

本学は公益財団法人大学基準協会の評価を受け、同協会の大学基準に適合していると認定されました。



本誌掲載の記事、写真、イラストの無断複写、転載を禁じます。



山形県立保健医療大学

Yamagata Prefectural University of Health Sciences

[お問い合わせ先]

公立大学法人 山形県立保健医療大学教務学生課
〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL: 023-686-6688 / FAX: 023-686-6674
URL: <https://www.yachts.ac.jp/>

山形県立保健医療大学
リンク先はこちら



TRAFFIC ACCESS 交通アクセス



飛行機

羽田空港	JAL	約60分	山形空港	タクシー 約40分	保健医療大学
伊丹空港	JAL	約75分			
名古屋空港	JAL/FDA	約65分			
新千歳空港	JAL/FDA	約65分			



JR

山形新幹線	東京駅	約2時間45分	山形駅
JR奥羽本線	南出羽駅	徒歩 約10分	保健医療大学
JR奥羽本線・仙山線	羽前千歳駅	徒歩 約20分	



バス

東京	高速バス	約5時間40分	山形		
仙台	高速バス	約1時間15分			
酒田(鶴岡)	高速バス	約2時間45分(約2時間)			
山形駅	県立中央病院行	約30分	終点	徒歩 約5分	保健医療大学

Graduate School of YPU GUIDE 2024



山形県立保健医療大学
Yamagata Prefectural University of Health Sciences

大学院
保健医療学研究科
案内





山形県立保健医療大学大学院に 関心をお持ちの皆様へ

本学は、2000年に1学部3学科を擁する4年制大学として開設され、2009年に公立大学法人として法人化しました。本年は設立から24年目を迎えましたが、この間、2004年に大学院修士課程(大学院博士前期課程)、2017年に大学院博士後期課程を開設し、看護学、理学療法学、作業療法学の3学位(修士、博士)を授与する体制になりました。山形の地に、基礎教育から、高度・専門化した研究までを一貫しておこなう保健医療の教育と研究を提供する拠点が確立し、着実な発展を遂げています。大学院卒業生は、山形県内はもちろん、東北地方や全国で保健医療の教員、指導者、専門職として華々しく活躍しています。

周知の通り、世界の保健・医療・福祉を巡る環境は激変しています。医療技術やInformation and Communication Technology (ICT)は絶え間なく革新され、それに応じた患者・利用者への対応も多様化しています。先進国では少子高齢化・人口減少社会が到来し、発展途上国でも数十年先には同じ問題を抱えることが確実視されています。

わが国は少子高齢化・人口減少社会の先

頭を走っていますが、とりわけ山形県を含む東北地方は、その先頭、すなわち「世界の先頭」を走っています。本大学院は、山形県内や東北各地をフィールドとすることが容易であることから、今後わが国はもちろん、全世界の喫緊の課題である少子高齢化・人口減少社会における保健医療の種々の課題や対応策を探究する先駆的研究に取り組みやすい絶好の環境にあります。すなわち、本大学院で研究活動して成果をあげることが「世界を牽引する」ことになるのです。本大学院卒業生が各所で華々しく活躍している理由にはこのような背景があります。

もちろん、大学院生が成長するためには、本人の努力に加えて、恵まれた研究環境が必要です。本大学院は、多彩で高度な教育・研究能力を有する世界水準のスタッフを擁しており、これらの教員が分野の壁をこえて、相互に教育と研究に関わり合う全学的・学際的な指導にも配慮しております。しかも最先端の教育・研究機器が揃っております。加えて、本学は欧米の大学をモデルとしており、ヨーロッパ調の美しい校舎をはじめ東京ドームより広い5ヘクタールを超える広大なキャン

パスを有し、10ヘクタールを超える「健康の森公園」に隣接するなど、恵まれた自然環境の中にあります。まさに、「科学や教育の心」を養うには絶好の環境にあります。

また、本大学院では、Research Assistant (RA) 制度やTeaching Assistant (TA) 制度を活用した本大学院生への経済的支援制度を整備しております。さらに、講義を夜間・休日に設定するなど、社会人大学院生の受講や研究にも最大限の配慮を払っているほか、ICTを駆使した遠隔講義にも対応しているため、必ずしも現在の居住地を離れる必要もありません。したがって、保健・医療に従事しながらより高度な技術・知識の獲得や直面する課題の解決を目指す、学び直しなどでも本大学院を活用できます。

教育・研究環境抜群の本大学院で、世界水準の保健・医療のスペシャリストになれるように、私たち教職員一同は全力で支援しますので、どうぞ、「志を高く」本大学院の門を叩いてください。

山形県立保健医療大学大学院
学長 上月 正博

EDUCATIONAL GOALS

教育目標

保健・医療・福祉の現場において卓越した実践能力と調整能力を持つ高度専門職業人や、次代を担う人材の育成、指導を行う教育者及び地域社会の諸課題へ対応するための研究開発能力に優れた研究者を養成する。

ADMISSION POLICY

アドミッション・ポリシー(入学受入方針)

本大学院では、次に示すような意欲と向学心のある人を求めています。

- ① 保健・医療・福祉の分野で社会に貢献しようとする意欲のある人
- ② 高い基礎学力と専門分野の基礎知識を持ち、科学的な根拠に基づいた保健・医療・福祉に貢献しようとする意欲のある人
- ③ 保健・医療・福祉の発展について、既成概念にとらわれずに創造的に考え、実践しようとする意欲のある人
- ④ 国際的視野を持ち、協調性に富む人
- ⑤ 就業のまま就学を希望する人については、仕事とのバランスを保って学業の課題を遂行できる人
- ⑥ 専門看護師課程選択では、看護実践に関する課題解決に向けた意欲のある人(博士前期課程のみ)

OUTLINE

大学院の概要

山形県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻
研究科長 加藤 浩

博士前期課程		
定員	12名	
学位	修士(看護学)、修士(理学療法学)、修士(作業療法学)	
標準修業年限	2年	

博士後期課程		
定員	3名	
学位	博士(看護学)、博士(理学療法学)、博士(作業療法学)	
標準修業年限	3年	

研究科長メッセージ MESSAGE FROM DEAN OF THE GRADUATE SCHOOL



本学大学院は、保健医療に関する専門性の高い教育研究を通じ、高度な知識と技術、卓越した実践能力と問題解決能力を有する質の高い人材養成を行い、病院、保健福祉施設等へ専門職として排出することにより、山形県における保健医療福祉の一層の発展を図り、もって県民の健康及び福祉の向上に寄与することを目的に設置されました。

本学大学院では、現場で感じている臨床疑問(Clinical question)を科学的手法により研究疑問(Research question)へと昇華させ、従来の定性的な部分を科学的手法により問題解決し、「Evidence-based health care」を実践できる人材の育成を目標の1つにしています。具体的には、博士前期課程では、探究心と課題解決能力のある保健医療の教育研究者と高度専門職業人の育成を目指します。博士後期課程では、①地域包括ケアや多職種連携等の変化しつつある保健・医療・福祉に対応しうる創造的な知識・技術を探求し、看護学、理学療法学、作業療法学のそれぞれの視点から高度な研究能力及びその基礎とな

る豊かな学識を基に、あらたな「知」を提示できる人材、②地域課題を踏まえて保健・医療・福祉に関する高度な教育研究を自律的にリードできる人材、③保健医療活動のリーダーとして、新たな看護やリハビリテーション等のサービスを研究・開発・実践できる保健医療の研究者あるいは高度専門職者の育成を目指します。

本学大学院は1研究科1専攻で構成されていますが、博士後期課程は博士前期課程との整合性を維持しながら、専門性を積み上げる形で教育課程が編成されており、看護学、理学療法学、作業療法学の3つの分野を専門的かつ包括的に学ぶことができます。そのため1専攻で複数の学位名称(看護学、理学療法学、作業療法学)の授与が可能な全国でも極めて希少な大学院教育プログラムを実施しています。

現在、本学に大学院が設置され約20年が過ぎ、多くの修了生が全国各地で活躍しています。そして、毎年、「志」と「夢」を持った多くの方が全国から集まってきます。特に本学大学院は、社会人の入学が多いため、個人の状況に応じて長期履修制度、夜

間開講・集中講義、遠隔授業など働きながら学べる支援体制も充実しています。是非、自身のキャリアアップの1つとして大学院への挑戦を検討してみてください。大学院修了後は、きっと目の前に新しい世界が開けているはずです。

本学教員は丸一となって研究をサポートする体制を整えて、皆様の入学をお待ちしています。

山形県立保健医療大学大学院
保健医療学研究科
研究科長・教授 加藤 浩

研究分野 FIELD OF STUDY

看護学分野



【問い合わせ先】 分野代表: 沼澤 さとみ 教授

TEL:023-686-6625 Email:snumazawa@yachts.ac.jp

看護学は人々の健康と生活を支える実践科学です。人間や社会の複雑で多様な健康問題に対応するために、より専門性の高い看護が求められています。看護学分野では、看護を実践する中で起こる課題解決のために、高度な専門的知識や技術、創造的なケアを提供する実践力、研究能力を身につけることを目指します。そして大学院修了後は、豊かな知と心をもった看護実践者、研究者や教育者として活躍していくことを期待しています。

博士前期課程は、看護学特別研究選択と専門看護師課程選択を設けています。また、博士後期課程では、看護学に関してより深く体系的に学ぶことができます。大学院に入学する多くの方は、働きながら学ぶ社会人です。学びのニーズも学び方も多様です。看護の実践で感じた疑問について、大学院で自ら学びたいという意欲をもち主体的に学んだことは、看護職として成長するための糧となります。学ぶべき疑問のある人は大学院の門をたたいてみてください。

理学療法学分野



【問い合わせ先】 分野代表: 鈴木 克彦 教授

TEL:023-686-6627 Email:ksuzuki@yachts.ac.jp

理学療法士の数は年々増加する一方で、理学療法の質の差が指摘されています。質の高い理学療法を提供するためには、専門職として常に新しい知見を吸収し、理学療法の効果を検証し、治療方法の開発・発展につなげることが望まれます。これらの能力は、研究活動で身につけられることが多くあります。具体的には、国内外の研究論文を読むこと、研究手法を検討・検証すること、研究で得られたデータを十分に考察することなどの過程で身につくと考えられます。

理学療法学分野には、県内のみならず全国各地から有職社会人の学生が多く集まってきました。仕事と大学院を両立するための長期履修制度があります。また遠隔の学生のためにオンラインでの講義や研究ミーティングも実施されています。臨床活動のなかで生じた疑問や興味のある分野を深めたいと感じている方の入学をお待ちしています。当該分野は専門分野の異なる教員が複数体制で指導します。興味のある方は、キャリアデザインとして大学院に挑戦してみたいはいかがでしょうか。一度ご相談ください。

作業療法学分野



【問い合わせ先】 分野代表: 佐藤 寿晃 教授

TEL:023-686-6660 Email:tsato@yachts.ac.jp

平成29年4月から、博士後期課程が開設され、一貫した教育と研究の実施が可能となりました。作業療法学分野では、博士前期・後期課程を通じて、作業療法学の様々な領域の基礎から応用実践に至る教育と研究を行います。そして、保健・医療・福祉の現場において、より高度な知識と技能を持った高度専門職業人の育成や、次代を担う人材の継続的な育成を行う教育者の養成及び諸問題の対策などの研究開発を行う研究者養成を目標としております。

特に、研究指導体制は、各分野の連携強化の視点から複数体制を取り、研究課題・計画に沿って、分野を問わず関係する教員が加わり、チームとして、より多角的な指導体制を導入しております。また、働きながら学べるよう、長期履修制度もありますので、学生の事情に合わせた履修が可能です。

作業療法学分野に興味のある方は、是非とも入学を検討願います。

指導教員及び研究テーマ SUPERVISOR AND RESEARCH TOPIC

出願を希望する方は、出願前に、指導を受けようとする教員と電話、E-mail等で連絡をとり、入学後の研究等について相談を行ってください。

看護学分野

- 主研究指導教員(後期) 菅原 京子 教授 齋藤 美華 教授 安保 寛明 教授 桂 晶子 教授
 主研究指導教員(前期) 沼澤 さとみ 教授 遠藤 恵子 教授 菅原 京子 教授 遠藤 和子 教授
 齋藤 美華 教授 安保 寛明 教授 桂 晶子 教授 鈴木 育子 准教授
 菊地 圭子 准教授 今野 浩之 准教授

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	沼澤 さとみ 023-686-6625 snumazawa@yachts.ac.jp	・看護技術教育における教育方法の検討 ・看護実践能力の向上に関する研究 ・看護師教育(キャリア、継続教育など)に関する研究		○
教授	遠藤 恵子 023-686-6642 kendo@yachts.ac.jp	・不妊カップルに関する心理社会的課題や援助に関する研究 ・思春期の性的健康問題に関する研究 ・知的障がいをもつ子どもの性教育に関する研究 ・地域における母子の健康支援に関する研究		○
教授	菅原 京子 023-686-6615 ksugawara@yachts.ac.jp	・複雑多岐に渡る健康課題を有する対象者への共生を目指した支援に関する研究 ・保健師記録と情報開示に関する学際的研究 ・地元医療福祉の担い手となる看護職者の役割に関する研究 ・地域看護診断に基づいた保健師活動に関する研究	○	○
教授	遠藤 和子 023-686-6644 kaendo@yachts.ac.jp	・臨床看護、成人看護学に関する研究 ・患者教育に関する研究 ・食看護、糖尿病看護に関する研究 ・ライフストーリーに関する研究 ・臨床倫理に関連する研究		○
教授	齋藤 美華 023-686-6708 misaito@yachts.ac.jp	・高齢者の看取りケアに関する研究 ・高齢者の倫理的課題に関する研究 ・高齢者および家族の健康とQOLに関するテーマ全般	○	○
教授	安保 寛明 023-686-6735 hambo@yachts.ac.jp	・精神疾患を有する人への援助と回復過程に関する研究 ・働く人のメンタルヘルス増進および離職予防に関する研究 ・精神保健面で配慮が必要な人のための地域包括支援システムに関する研究 ・総合病院におけるリエゾン精神専門看護師の機能に関する研究	○	○
教授	桂 晶子 023-686-6623 skatsura@yachts.ac.jp	・家族介護者支援、高齢者虐待予防など高齢者のQOL向上に関する研究 ・生活習慣病の重症化予防など住民の健康寿命延伸や健康づくりに関する研究 ・地域防災および災害時の公衆衛生看護活動に関する研究 ・保健師活動に関する研究	○	○
准教授	鈴木 育子 023-686-6645 isuzuki@yachts.ac.jp	・在宅療養児・者とその家族への援助に関する研究 ・訪問看護に関する研究		○
准教授	菊地 圭子 023-686-6729 kkikuchi@yachts.ac.jp	・性の健康教育に関する研究 ・女性の健康と運動に関する研究 ・周産期の女性の健康課題と支援に関する研究 ・母乳育児に関する研究		○
准教授	今野 浩之 023-686-6733 hkonno@yachts.ac.jp	・地域で生活を継続する精神障がいを持つ人々に関する研究 ・市町村の保健師活動および地域住民への健康支援に関する研究		○
准教授	南雲 美代子 023-686-6626 mnagumo@yachts.ac.jp	・キネステティクス教育プログラムを活用した日常生活援助技術に関する研究 ・キネステティクス教育プログラムが専門職に及ぼす影響	○	○
准教授	蓬田 伸一 023-686-6637 syomogida@yachts.ac.jp	・生理活性物質による細胞機能調節機構の解析 ・細胞の物質取り込みとそれを制御する因子の探索		○
講師	高谷 新 023-686-6628 stakaya@yachts.ac.jp	・看護師のメンタルヘルスの増進、離職予防に関する研究 ・ワーク・エンゲイジメント(仕事への前向きさ)に関する研究		○

理学療法学分野

- 主研究指導教員(後期) 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授
 主研究指導教員(前期) 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授
 南澤 忠儀 准教授 渡部 潤一 准教授 室伏 祐介 講師

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	鈴木 克彦 023-686-6627 ksuzuki@yachts.ac.jp	・足部変形の運動連鎖に関する研究 ・超音波画像解析による深部筋の機能解析研究 ・運動障がいに対する徒手治療の効果に関する研究	○	○
教授	加藤 浩 023-686-6659 hikato@yachts.ac.jp	・運動器疾患の理学療法に関する研究 ・表面筋電図を用いた動作分析に関する研究 ・バイオメカニクスに関する研究	○	○
教授	石川 仁 023-686-6646 hishikawa@yachts.ac.jp	・予防医学領域におけるバイオマーカーの探索 ・ワクチン接種率の地域間格差の要因研究	○	○
教授	村 成幸 023-686-6648 nmura@yachts.ac.jp	・超音波elastographyを用いた肩周囲の機能解析研究 ・画像(MRI・CT・超音波)による病態解析研究	○	○
准教授	南澤 忠儀 023-686-6639 tminamisawa@yachts.ac.jp	・立位姿勢の制御機構に関する研究 ・運動中の脳波-筋電図コヒーレンスに関する研究 ・転倒予防を目的とした物理的刺激療法の開発		○
准教授	渡部 潤一 023-686-6662 jwatanabe@yachts.ac.jp	・小児リハビリテーション・発達障がい児の運動支援に関する研究 ・健康増進・運動疫学に関する研究 ・発症疾患と身体機能のリスク要因・予防要因における研究		○
講師	室伏 祐介 023-686-5220 ymurofushi@yachts.ac.jp	・股関節深層筋に関する研究 ・超音波画像診断装置を用いた筋柔軟性に関する研究 ・表面筋電図を用いた足部機能に関する研究		○
講師	赤塚 清矢 023-686-6737 sakatsuka@yachts.ac.jp	・予防理学療法に関する研究 ・生活習慣と身体機能に関する研究 ・心拍変動解析を用いた自律神経機能の評価に関する研究		○
助教	鈴木 栄三郎 023-686-6764 esuzuki@yachts.ac.jp	・非侵襲的脳刺激および心理物理学手法を用いた観察学習に関する研究 ・末梢神経磁気刺激法に関する研究		○

作業療法学分野

- 主研究指導教員(後期) 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 菊池 昭夫 教授
 主研究指導教員(前期) 佐藤 寿晃 教授 藤井 浩美 教授 菊池 昭夫 教授 千葉 登 准教授
 鈴木 由美 准教授 外川 佑 准教授 仁藤 充洋 准教授

職名	氏名・問い合わせ先	主な研究指導テーマ	後期	前期
教授	佐藤 寿晃 023-686-6660 tsato@yachts.ac.jp	・ヒト上肢運動機構における機能解剖学および神経生理学的研究 ・運動器疾患患者における運動機能評価および治療効果に関する研究 ・高齢者の介護予防に関する研究	○	○
教授	藤井 浩美 023-686-6649 hfujii@yachts.ac.jp	・ヒト上肢の機能解剖学・神経生理学的研究 ・片麻痺の上肢機能に関する研究 ・眼と手の協応に関する研究 ・日常生活の作業活動解析に関する研究	○	○
教授	菊池 昭夫 023-686-6661 akikuchi@yachts.ac.jp	・神経変性疾患のPETによる脳機能解析 ・パーキンソン病の認知・嚥下・歩行障がいの病態解明 ・多系統萎縮症の病因研究	○	○
准教授	千葉 登 023-686-6629 nchiba@yachts.ac.jp	・脳卒中上肢運動機能に関する研究 ・障がい者スポーツの社会的認知に関する研究 ・障がい者スポーツ選手の競技力向上のための研究		○
准教授	鈴木 由美 023-686-6652 yusuzuki@yachts.ac.jp	・上肢機能と日常生活活動の関連 ・頸部脊髄症者の上肢運動機能の回復過程と日常生活活動の研究 ・急性期脳卒中患者の転帰先を予測する作業療法評価の研究		○
准教授	外川 佑 023-686-6650 tsotokawa@yachts.ac.jp	・障がい後の自動車運転再開に関する研究 ・高齢者の自動車運転および地域移動手段に関する研究		○
准教授	仁藤 充洋 023-686-6656 mnito@yachts.ac.jp	・神経生理学的手法を用いたヒト運動制御機構の解明 ・運動機能の向上を促すリハビリテーション法の開発と神経メカニズムの解明		○
准教授	森 直樹 023-686-6657 nmori@yachts.ac.jp	・重症心身障がい児・者の呼吸生理に関する研究 ・在宅障がい児の家族支援に関する研究		○

博士前期課程

広い視野で先駆的研究に取り組む

入学定員
12人



CURRICULUM POLICY

カリキュラム・ポリシー

高度な知識と技能を有し、幅広い視野を持つ実践者、教育者及び研究者を育成するために、看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野のすべての学生が学際的に学ぶ「共通科目」「専門支持科目」「専門科目」の3つに大別して編成する。

■ 共通科目
研究活動の基礎となる研究法と保健医療の基礎的知識等を学ぶための科目を配置する。

■ 専門支持科目
各分野の専門科目を学んでいく上で基礎となるとともに、学生の教育と研究の深化を可能とし幅広い視野を養うための科目を配置する。

■ 専門科目
分野ごとに専門知識の修得を目的とした特論・特論演習のほか、修士論文の作成に向けた、特別研究を配置する。専門看護師課程選択では、専門分野における高度な看護実践能力の獲得に必要な知識と技術の修得を目的とした演習や実習及び課題研究を配置する。

DIPLOMA POLICY

ディプロマ・ポリシー

01
臨床や教育、研究の場において、変化する保健・医療・福祉の課題と展望を発見し、解決していくために、幅広い深さと兼ね備えた高度な専門的知識を活用して、科学的に思考することができる。

02
保健・医療・福祉の向上に、責任感を持ち、課題と展望を見出し、その解決に向けて積極的に貢献する高度な職業人としての姿勢を持つことができる。

03
自らの研究について、的確に表現し、意見を交換することができる。

VOICE 院生メッセージ



・保健医療学部看護学科卒
・山形県立中央病院 看護師
・博士前期課程2年次

現場では気づかなかった 視点や考え方が得られる

看護学分野
小松 恭輔さん Kyosuke Komatsu (指導教員) 沼澤 さとみ教授

院進を選択したのは、先輩の勧めがあったから。また、先生方がとても親身になってくれる上に、働きながらでも学べ、自分に合った学び方ができる点に魅力を感じたからです。大学院では、自分が興味のある分野についてとことん学ぶことができます。大学院での学びと臨床を並行していることによって、現場では気づかなかった視点や考え方を得たり、身に付けた学術的な知識を速やかに現場に生かしたりと多くのメリットを享受できています。大学院の仲間や先生と情報交換やディスカッションできる環境も刺激的。今後もここでの学びを楽しみながら研究活動を継続していきたいです。

研究テーマ | 集中治療室の看護師が行う家族のケア参加と参加促進に必要な支援

集中治療室で働く看護師にインタビューを実施。家族ケアの内容やその関わり度合い、またケアに参加してもらうために看護師が行っている支援などを調査しています。家族のケア参加に対する支援への示唆を得ることで、集中治療室における家族看護の質を高める一助にしたいと思っています。

私の大きな前進

- ・人間としても看護師としても成長
- ・論理的思考の発展



・山形医療技術専門学校 理学療法学科卒
・公立置賜総合病院 リハビリテーション部 理学療法士
・博士前期課程2年次

今後の“臨床での宝物”が ここにはたくさんあると実感

理学療法学分野
荒井 珠美さん Tamami Arai (指導教員) 鈴木 克彦教授
高橋 俊章特任教授

進学理由は、大学院に通いながら精力的に仕事を行う先輩、卒業後も臨床疑問を着実に研究し続ける先輩の姿を見て、素直に“私もそうになりたい”と思ったからです。社会人の院生に合わせた授業日程や研究環境が整っている点が、私には合っていました。興味ある研究分野を徹底的に探究し、指導教員からの適切で建設的な助言により研究できることが、最大の魅力と感じています。年齢に関係なく、院生間で気軽に相談でき、それが新たな視点となり、さらなる学びにつなげられる。臨床経験で感じていたことを、研究を通して1つずつ明らかにしていく。これが私の課題だと思っています。

研究テーマ | 急性期病院における廃用症候群患者の疾患ごとの特徴に関する研究

身体の不活動状態により生ずる二次的障害として体系化され、不動や低運動、臥床に起因する全身の諸症状「廃用症候群」。そのリハビリテーション処方であった患者をICD10により分類し、分類ごとの廃用症候群の特徴を把握、また分類ごとの運動機能低下の程度を把握することを目的とし、研究を進めています。

私の大きな前進

- ・臨床の疑問についての解消の一步につながる
- ・ここでの経験と人とのつながりは今後、臨床で必要となる宝物

CURRICULUM カリキュラム

博士前期課程の授業科目の概要

看護学分野 2領域

領域	主な授業科目
看護学特別研究選択	病態機能学特論、病態機能学特論演習
	基礎看護学特論、基礎看護学特論演習
	看護管理特論、看護管理特論演習
	地域保健行政看護学特論、地域保健行政看護学特論演習
	家族・在宅看護学特論、家族・在宅看護学特論演習
応用看護学領域	精神看護学特論Ⅰ、精神看護学特論演習
	成人看護学特論、成人看護学特論演習
	老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論演習
	母子看護学特論、母子看護学特論演習

領域	主な授業科目
専門看護師課程選択	老年看護 老年看護展開論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ
	母性看護 周産期看護展開論Ⅰ～Ⅳ、周産期看護実習Ⅰ～Ⅲ
	精神看護 精神看護展開論Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習Ⅰ～Ⅴ

理学療法学分野 2領域

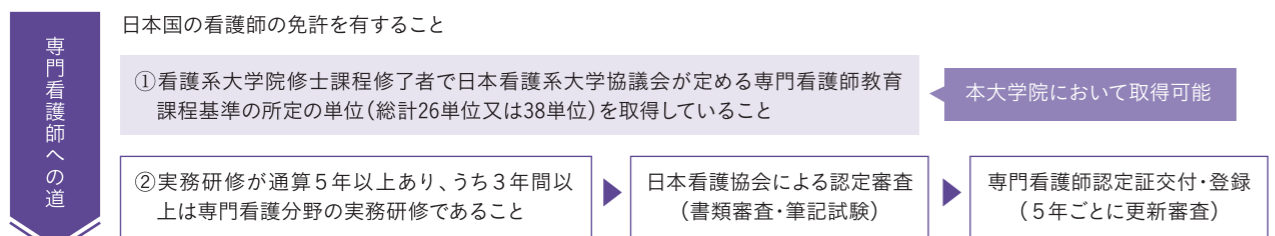
領域	主な授業科目
基礎理学療法学領域	運動解析学特論、運動解析学特論演習
	運動生理学特論、運動生理学特論演習
臨床理学療法学領域	運動機能理学療法学特論、運動機能理学療法学特論演習
	神経機能理学療法学特論、神経機能理学療法学特論演習
	運動障がいリハビリテーション学特論、運動障がいリハビリテーション学特論演習

作業療法学分野 2領域

領域	主な授業科目
臨床作業療法学領域	神経障がいリハビリテーション学特論、神経障がいリハビリテーション学特論演習
	作業活動解析学特論、作業活動解析学特論演習
	内部障がいリハビリテーション学特論、内部障がいリハビリテーション学特論演習
発達作業療法学領域	発達過程作業療法学特論、発達過程作業療法学特論演習
	作業療育学特論、作業療育学特論演習

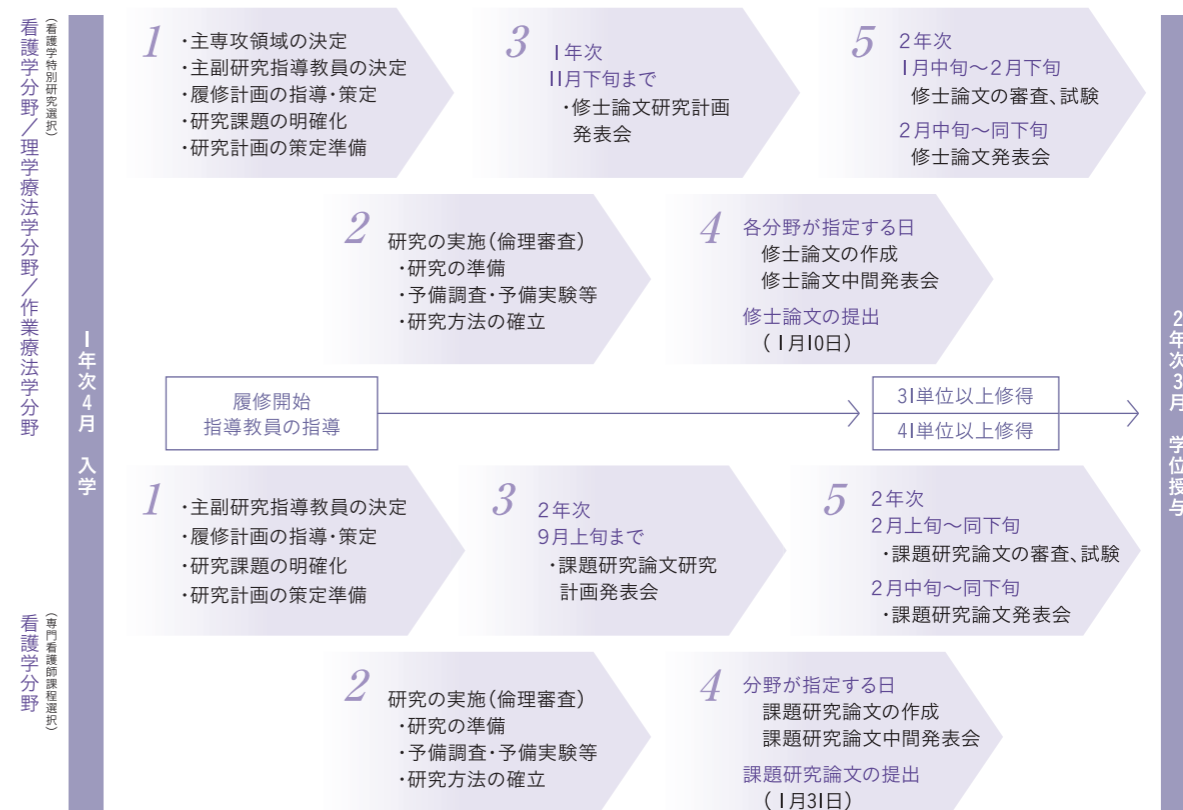
専門看護師の養成

本大学院の専門看護師課程を選択・学修することにより、日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得することができます。



SCHEDULE 履修指導および研究指導の方法・スケジュール

博士前期課程学位取得までのフロー[通常の場合]



COURSE REQUIREMENTS 履修単位と履修要件

博士前期課程

修了単位の「31単位以上」又は「41単位以上」を2年間で修得することになります。

詳しくは、下記の表をご覧ください。

①看護学分野(看護学特別研究選択)、理学療法学分野、作業療法学分野

次の基準により、31単位以上を履修する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	1単位	必修
	4単位以上	選択
専門支持科目	4単位以上	選択
専門科目	12単位以上	選択
特別研究	10単位	必修

時間割は履修科目数によって違ってきますが、おおよそ1年次の前期に4コマ/週(8単位)、集中講義で5単位、後期に4コマ/週(8単位)、2年次はおもに特別研究になりますので、週2回程度大学に通えば修得可能です。なお、特別研究については担当教員と相談しながら進めることになります。

②看護学分野(専門看護師課程選択)

次の基準により、41単位以上を履修する必要があります。

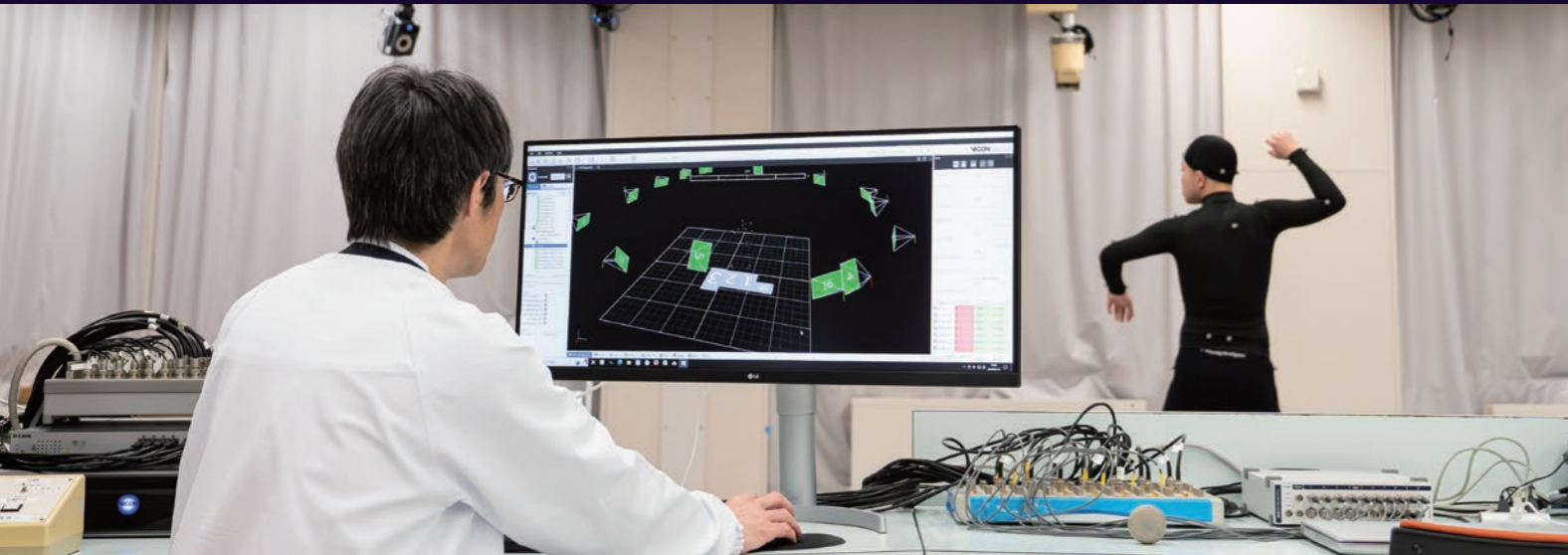
科目区分	履修単位数	備考
共通科目	1単位	必修
専門支持科目・専門科目	8単位以上	選択
専門支持科目	4単位	必修
専門科目	28単位	必修

時間割は履修科目数によって違ってきますが、おおよそ1年次の前期に7コマ/週(14単位)、後期に7コマ/週(14単位)、これに集中講義が加わります。2年次はおもに演習や実習中心のカリキュラムとなります。

博士後期課程

高度な専門的知識や技術をさらに深める

入学定員
3人



CURRICULUM POLICY

カリキュラム・ポリシー

看護学分野、理学療法学分野、作業療法学分野のすべての学生が学際的に学ぶ「共通科目」と、分野ごとに開講する「専門科目」の2つの科目区分で教育課程を編成する。

共通科目

保健医療全般にかかわる社会的課題や、社会発展に貢献する基盤となる多職種連携・協働に関するシステム、研究者・教育者や高度専門実践の指導者としての必要な理論や概念、さらに自立した教育や研究活動に向けた能力を養うための科目を講義や演習形式で配置する。

専門科目

専門分野ごとに研究者・教育者や高度専門実践の指導者として必要な科目を配置し、専門職としての研究テーマや研究方法を追求する能力を涵養する。

DIPLOMA POLICY

ディプロマ・ポリシー

01

臨床や教育、研究の場において、変化する保健・医療・福祉の課題と展望を発見し、創造的に解決していくために、幅広さと深さを兼ね備えた高度な専門的知識を活用して、科学的に思考することができる。

02

保健・医療・福祉の向上に、責任感を持ち、課題と展望を見出し、その解決に向けて積極的に貢献する指導者としての姿勢を持つことができる。

03

自らの研究について、あらたな「知」として的確に表現し、意見を交換することができる。

VOICE

院生メッセージ



・仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科卒
・保健医療大学大学院 博士前期課程修了
・山形市立病院済生館 作業療法士
・博士後期課程2年次

各分野のプロフェッショナルから 学科を超え、指導を受けられる環境

作業療法学分野

吉田 海斗さん Kaito Yoshida (指導教員) 藤井 浩美教授

私が大学院の進学を考えていたとき、山形県立保健医療大学の大学院のOBに相談する機会がありました。ここには多くのプロフェッショナルが揃い、学科を超えた指導を受けられる環境があることを知り、教授を紹介してもらうことに。短大卒のためストレートで進学できない私のために、通信大学や学位授与機構を利用する方法など、教授が入学に必要な手順を親身にご教示くださいました。そのおかげで今の私があります。ここで学ぶメリットは他にも、フルタイムはもちろん、県内外の社会人の大学院生が在籍し、多くの研究者に出会えること。海外留学など、活発に研究に取り組む院生も多く、とても刺激になっています。

研究テーマ

末梢神経磁気刺激が脳の興奮性に与える影響

末梢神経に磁気刺激を与えることで脳の興奮性を高められることが知られています。有効なリハビリテーション手法のひとつと考えられる、その原理やメカニズムを解析するため、大学院にある最先端の医療機器を使用し、神経生理学的な手法を用いた研究をし、知見を深めています。

私の大きな前進

- ・多様な研究者と出会い、広い分野の研究に関わることができる
- ・活発に研究に取り組んでいる院生も多く、刺激になっている

CURRICULUM

カリキュラム

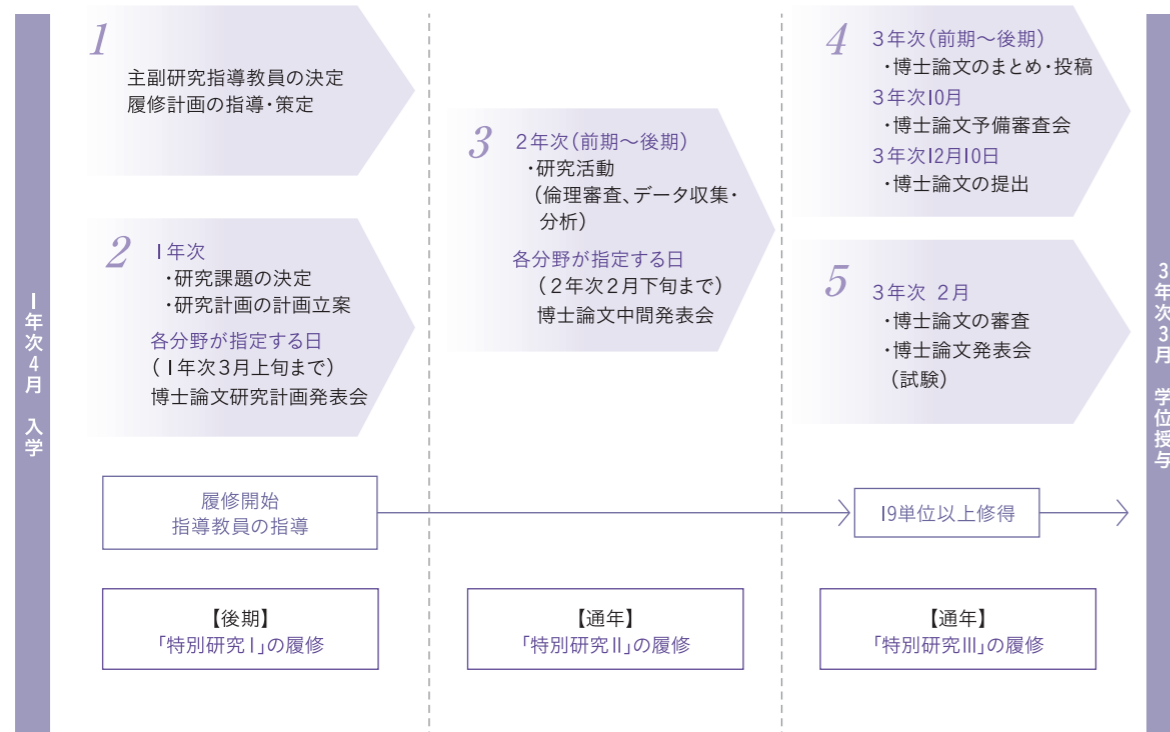
博士後期課程の授業科目の概要

共通科目	保健医療福祉の連携・協働特論
	研究と倫理
	高等教育政策・教育方法特論
	看護の発展と研究特論
	リハビリテーションの発展と研究特論
	生体反応と臨床応用特論
	保健医療の社会的課題と対応特論
保健医療教育特論	

看護学分野	コミュニティヘルス看護学特論
	ヘルスプロモーション看護学特論
	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ 看護学特別研究Ⅲ
理学療法学分野	運動器障がい動態解析学特論
	機能再建理学療法学特論
	理学療法学特別研究Ⅰ 理学療法学特別研究Ⅱ 理学療法学特別研究Ⅲ
作業療法学分野	生活行為作業療法学特論
	発達過程作業療法学特論
	作業療法学特別研究Ⅰ 作業療法学特別研究Ⅱ 作業療法学特別研究Ⅲ

SCHEDULE 履修指導および研究指導の方法・スケジュール

博士後期課程学位取得までのフロー[通常の場合]



COURSE REQUIREMENTS 履修単位と履修要件

博士後期課程

次の基準により、19単位以上を修得する必要があります。

科目区分	履修単位数	備考
共通科目	3単位	必修
専門科目(特別研究を除く)	4単位以上	選択
特別研究	2単位以上	選択
特別研究	10単位	選択必修



TOPICS 山形県立保健医療大学の注目の話題

TOPICS 01 | ルーマニア クライオバ医科薬科大学との交流



欧州連合によるErasmus+ (プラス)プロジェクトの一環で招聘を受けた看護学分野の安保寛明教授と高谷新講師の2名がルーマニアのクライオバ医科薬科大学に派遣されました。(派遣期間2023年3月2日～8日)同大学医学部2年生に対する教育講演として、安保寛明教授が「日本の地域精神保健と自殺予防」と「住まいを奪われた人々の心身への影響と支援-東日本大震災と原電事故から10年後の知見」の2つの講演を行いました。高谷新講師は大学院博士後期課程で行った研究についての発表を行いました。両大学は、今後も交流を継続していく意向を表明しています。

TOPICS 02 | 大学院生が日本学術振興会特別研究員-DC1に採用



大学院博士後期課程2年次に在学中の星川恭賛さんが令和4年度の日本学術振興会特別研究員-DC1に採用されました。この制度は、博士後期課程の学生の研究活動を支援し、学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を目的としています。海外大学への留学も奨励され、グローバルな視野を持った研究者の育成を促進しています。星川さんは現在、テキサス大学に留学し、バイオメカニクスを用いた筋骨格系疾患の病態解明を目的に研究を行っています。今後は、高齢社会の問題となっているサルコペニアの予防・治療介入に貢献したいと考えています。

星川 恭賛さん
 ・保健医療学部理学療法学科 卒業(2021/3)
 ・大学院博士前期課程 修了(2022/3)
 ・大学院博士後期課程(2022/4～)

TOPICS 03 | 学術誌「作業療法」奨励賞 受賞



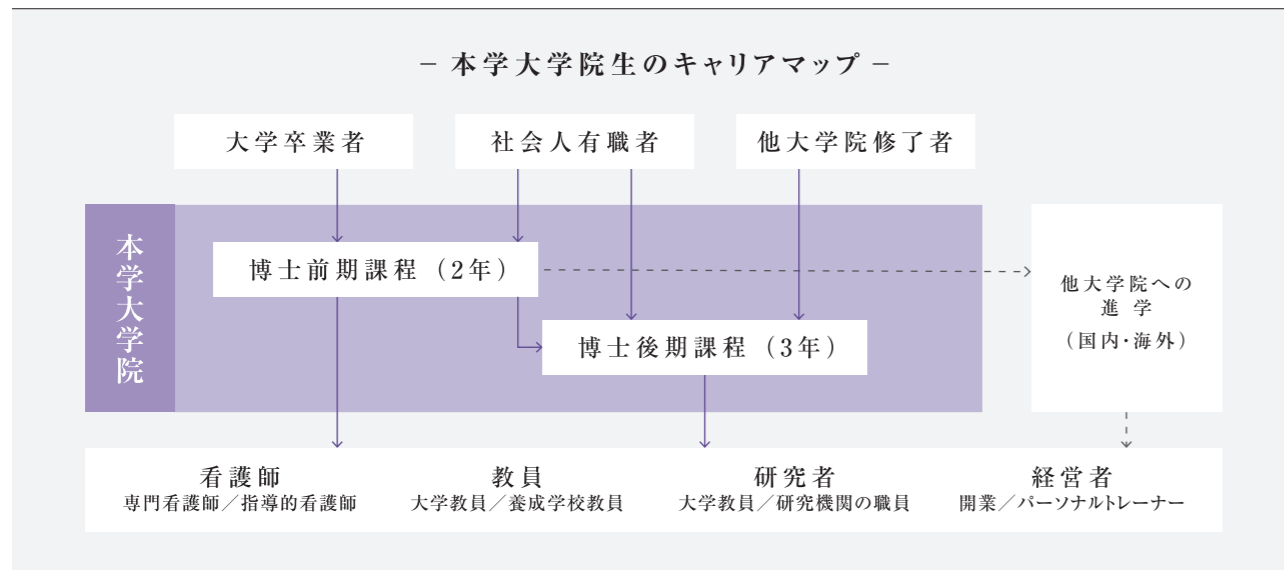
外川佑准教授の実験報告論文が学術誌「作業療法」の2022年奨励賞を受賞しました。自動車運転再開支援では、対象者の運転能力を包括的に捉えることが求められます。今回、外川准教授らは、過去3回の運転評価で全般的な注意機能低下と危険運転行動により運転再開不可とされた70代男性に対し、教習指導員と協業して交通心理学のアプローチを用いた介入を実施した結果、ブレーキ操作や運転パフォーマンス、自身の運転に関するメタ認知に変化を認め、最終的に運転再開に至った事例を報告しました。なお、本賞については第57回日本作業療法学会(令和5年11月宜野湾市)の閉会式において、表彰状授与が行われる予定です。

外川 佑 准教授
 ・保健医療学部作業療法学科 卒業(2006/3)
 ・大学院博士前期課程 修了(2008/3)
 ・山形県立保健医療大学 准教授(2022/4～)

CAREER PATH

本学大学院から活躍の幅を広げる修了生たち

自らの興味のある分野を深め、研究や論文発表などを通してキャリアを積んでいく大学院生たち。
修了後は教授や研究員など、全国各地のさまざまな領域でその力を発揮しています。



修了生メッセージ

CASE 01 看護学分野



佐藤 大輔さん Daisuke Sato

2011年 博士前期課程修了 / 2021年 博士後期課程修了
東北文化学園大学 医療福祉学部
看護学科（講師 / 看護師）

実践と学問が融合する、研究者にとって最適な環境

山形県内で病院勤務をしながら通学する私にとって、立地も学費面も大事ですが、自分の考えている研究テーマで進められるかという点と、「この先生の研究室で研究したい」という両方が揃っていることが、本学大学院に進学する決め手となりました。

実際に学んでみると、単に研究だけでなく、課題解決に向けたさまざまな取り組みを広く学ぶことが最大の魅力。徹底的に考える、調べる、行動してみ、検証する、という力が養われました。また、所属研究室だけでなく、いろいろな学生や教員とのディスカッションは視野が広がり、楽しいものでした。論文投稿では、わかりやすく記述する難しさや、新しい発見を世の中に出す喜びを味わいました。これが現在の原動力に。ほかにも国際学会での発表や人とのつながりなど、いろいろな経験が血肉になっていると実感します。ここは、「実践と学問を融合できる場」。院生が集中して研究や課題に取り組める設備が揃い、学修や研究環境としても最適な場所です。目標は「臨床・研究・教育」の3つをつなげられる人になること。そして将来的にはそういう人材を育成できるようにしたいですね。

MY CAREER PATH

1997 山形県立高等保健看護学院卒業

2009-2011 本学大学院にて修士号取得

2017-2021 本学大学院にて博士号取得

2022.4～ 現職

CASE 02 理学療法学分野



小関 忠樹さん Tadaki Koseki

2020年 博士前期課程修了 / 2023年 博士後期課程修了
済生会 山形済生病院 理学療法士
山形県立保健医療大学 客員研究員(2023/5～)

研究者として、理学療法士としての基礎を造り上げてくれた場所

本学大学院を選んだ理由は、国際的にも活躍され、国内でも著名な研究者でもある先生の下で学ぶことができる最良の環境だということ。また、山形県立保健医療大学は母校でもあり、理学療法士として臨床に従事しながら大学院に進学する環境として適していると感じたからです。

大学院進学最大の魅力は、本学大学院内に限らず、全国の多くの仲間と出会えることです。学ぶ目的や動機は人それぞれですが、進学という行動を起こし、研究を続ける人たちとともに研鑽した経験はとても貴重で刺激的でした。また、研究手続きを学び、論文を執筆する中では、理論的に思考する力を磨くことができました。研究を行い、論文を執筆する上では、反証性を持って理論的に思考することは欠かせません。自分の考えだけでなく、ディスカッションを繰り返すことで、論理的な思考が深まり、多角的に一つの事象を思考する能力が磨かれました。この思考力は、現在の研究活動や学術活動にも活かされています。それだけでなく、患者様へのリハビリテーションの場でも同じように論理的な思考が続けられていると実感しています。

患者様の利益になる研究、臨床に活かせる研究を続けていくことが今後の目標です。皆さんもここで、多くの学びと出会いを経験してほしいです。

MY CAREER PATH

2017 本学卒業

2018-2020 本学大学院にて修士号取得

2020-2023 本学大学院にて博士号取得

2017.4～ 現職

CASE 03 作業療法学分野



花田 恵介さん Keisuke Hanada

2020年 博士後期課程 修了
四條畷学園大学 リハビリテーション学部
作業療法学専攻 教授

飽くなき知的好奇心に魅了された3年間

私は大阪府内の病院で働きながら山形県保健医療大学の大学院に進学し、大阪と山形を往復する大学院生活を送りました。通学に不安はありましたが、臨床神経心理学をより深く学びたいという思いから大学院の門を叩きました。距離は離れども、先生方は連絡すればいつでも相談に乗ってくれる頼もしい存在。何より驚いたのは、先生方の飽くなき知的好奇心でした。その豊かな専門知識とバイタリティに魅了されたのは言うまでもありません。また、先生方は私の拙い考えを決して否定せず、洞察に富んだフィードバックと建設的な議論に終始、徹底してくれました。学位取得はもちろん容易なものでありませんでしたが、そのような関係性を築いてくれた先生方のおかげで、私は大学院生活に没頭し、今の研究の土台を積み上げることができました。

共に学び合った院生は今でも尊敬し合える仲間です。研究分野の異なる院生同士が互いを尊敬しながら楽しく議論できる院生室は、まさに学びのつぼみでした。

私は現在、養成校の教育現場に勤めていますが、この大学院での経験が私のポリシーを形成していると言っても過言ではありません。それを武器に、作業療法教育の分野に貢献できることを誇りに思っています。

MY CAREER PATH

2005 広島大学卒業

2013-2015 大阪府立大学大学院にて修士号取得

2017-2020 本学大学院にて博士号取得

2023.4～ 現職

修業支援制度

長期履修制度

職業を有していたり、介護・育児に従事している等の事情により標準修業年限(博士前期2年・博士後期3年)を超えて一定の期間(博士前期1年・博士後期2年(休学の期間を除く))にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度を設けています。

なお、長期履修制度を利用する場合は、標準修業年限(2年又は3年)を超える長期履修期間の授業料については免除します。

夜間講義・集中講義

社会人が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条により、夜間講義を設けるほか、必要に応じ土曜・日曜・祝日や夏季・冬季休業期間中に集中講義を設けています。

ティーチング・アシスタント制度

優秀な大学院生に、教育的配慮のもとに、教員の教育補助者として、授業の準備・補佐や実習の支援などに従事してもらうことにより、経済的支援とともに教育トレーニングの機会の提供を図る制度を設けています。

リサーチ・アシスタント制度

優秀な博士後期課程の学生に、教員の研究補助者として、研究活動の補助業務に従事してもらうことにより、経済的支援とともに研究者としての研究遂行能力の育成を図る制度を設けています。



出願資格

博士前期課程

出願資格は、①大学卒業者、②大学改革支援・学位授与機構の「学士」取得者、③短期大学及び高等専門学校の卒業者、専修学校専門課程の修了者等で、本学大学院において個別の入学資格審査の結果、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認定されたもので22歳に達した者、④その他学校教育法第102条2項に規定する者で、本学入学資格審査基準を満たす者等となります。

なお、③④は出願資格審査がありますので、書類の提出が必要です。

また、入学時において、看護師等の国家資格者として3年以上※の実務経験を有する者については、選抜区分で「社会人特別選抜」を設けています。選抜方法については、面接を重視した点数配分を考えています。

※①国家試験受験後の合格見込みによる採用期間等は実務経験の期間に含む。

②連続した期間でなくとも、通算で3年以上働いていれば可とする。

③判断が困難な場合は個別に検討する。

博士後期課程

出願資格は、①修士の学位又は専門職学位を有するもの(見込みの者を含む)、②大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事し(見込みの者を含む)、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者、③修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められ、24歳に達した者(24歳になる見込みの者を含む)となります。

なお、②③は出願資格審査がありますので、事前に書類の提出が必要です。

募集要項の請求

募集要項は、9月下旬から配布を予定しています。請求方法は、本学の事務室窓口で受け取るか、郵送による方法になります。

郵送による送付を希望する場合は、郵便番号・住所・氏名を明記し、250円分(1部請求の場合)の切手を貼付した返信用封筒(角形2号)を同封のうえ請求してください。なお、封筒の表面には「大学院学生募集要項請求」と朱書きするとともに、裏面には住所・氏名・電話番号を記載してください。